福祉教育ニュース

令和３年12月号 ◆ №60 ◆ 発行 社会福祉法人 千葉市社会福祉協議会

◆編　集◆
千葉市ボランティアセンター
〒260-8618
千葉市中央区千葉寺町1208-2
TEL　043（209）8850
FAX　043（312）2886
URL http://www.chiba-shakyo.jp/vc/

福祉教育の基本的な考え方
～「福祉」を学ぶこと・教えることとは～

千葉市社会福祉協議会では、学校における福祉教育やボランティア学習の実践を支援するために「ボランティア活動推進協力校指定事業」を実施しています。担当の先生から、「福祉教育をどのように進めればよいか悩んでいる」「福祉教育の基本的な考え方を知りたい」といった声がよく寄せられるため、本年６月に開催した連絡会議の中で、順天堂大学　スポーツ健康科学部健康学科　先任准教授　松山毅先生に「福祉教育の基本的な考え方」をテーマに講義をお願いしました。講義の内容の一部をご紹介します。

福祉教育の目的

福祉教育は「福祉」を素材に学ぶ教育活動ですが、どのようなことを目指すものなのでしょうか。

①ノーマライゼーションの実現

ノーマライゼーションとは、障害などのハンディキャップがあっても平等に生活できる社会こそノーマルな社会である、という考え方です。障害のある方本人が変わるのではなく、社会にはどういう方が暮らしているのか、どんな思いで暮らしているのか、どんな社会であればみんなが仲良く暮らせるのかを考え、社会の方を変えていくという発想です。「違いをなくす」ことではなく「違いを認め合う」ことがノーマライゼーションの大切な理念です。

②豊かな福祉文化の創造

憲法２５条には生存権について記されていますが、人間らしい生き方をするためには、衣食住の最低生活を保障するだけでは十分とは言えません。それぞれが自分らしく生きることや自己実現も社会で支えていくという発想は、周囲の理解や協力が必要不可欠です。このような「福祉文化の創造」を目指すことも福祉教育の大きな目的です。

③福祉課題を解決する力を身につけること

福祉について学習する中で、子どもたちが身近な福祉課題に疑問や関心を持ち、調べてみようと思う道筋を作ることも福祉教育の大切な役割です。このような経験を通して、福祉課題を解決する力を身につけ、「ともに生きる力」を形成することを目指します。

子どもたちが福祉教育を通して、福祉について知識や関心を蓄え、身近に困っている人がいたら声をかけ、一歩踏み出せる力を身につけることで、明るい社会、やさしい社会につながります。子どもの頃から様々な学習、体験等を通して「種まき」をすることも福祉教育の大切な役割です。

現在の福祉教育の問題点

福祉教育には、社会福祉問題を学習素材として取り上げ、体験学習を重視するという特徴があります。

机上の学びだけではなく、直接的なふれあいや対話を通して、社会福祉を現実の問題として捉え、学ぶことを重視してきました。

同時に現在の福祉教育の問題点として、福祉の授業が「疑似体験」に矮小化されがちということがあります。高齢者疑似体験、障害の疑似体験は福祉教育の授業でよく取り入れられていますが、その後の感想の多くに「怖かった」「大変だった」という声が上がります。疑似体験が障害のできないところ、マイナスの部分の体験のみで終わってしまうと、かえって「貧困な福祉観」を作り出すことになってしまいます。そこに「対等な個人」という視点があるでしょうか。

また、老人ホームや敬老会などで、子どもたちが歌や演奏を披露するといった交流活動もよく行われています。もちろん高齢者は、子どもたちと会うと元気になり喜びます。ただ一方で、気をつけなければいけないのが、子どもたちの発表やボランティアのためだけの場になっていないかということです。高齢者が求めていることと自分たちが提供したいことのマッチングも考えないと、やった方だけの満足になってしまいます。訪問や交流の前提として、何を望まれているのか、何のための交流なのか、事前のすり合わせが重要です。

疑似体験や交流は、あくまでも「気づき」の導入の一つであり、その後の展開が大切です。手話や点字も障害のある方とコミュニケーションをとることが目的で、技術を覚えることが第一の目的ではありません。疑似体験を含めた福祉教育を通して、共に生きるとは何か、老いるとは何か、障害とは何か、という問いかけをしながら、人のいのちの問題を考えていくのが、福祉教育の本質的なねらいです。

体験などで共に過ごす場、時、感情を共有したり、一緒に楽しんだりする経験を通して、高齢者や障害のある人も同じように笑い、いろいろなことができるのだ、と気づき、さらにその先に自分たちに何ができるのか、考えるきっかけになればよいと思います。

「福祉」を学ぶ・教えるということ

福祉教育で「福祉」を素材とした学びを通して、実践者は子どもたちに何を伝えたいのか、気づいてほしいのか、考えてほしいのか、何を伝えられたのかを考える必要があります。同じ福祉素材を扱っても、人により感じ方や考え方は異なります。作文や話し合い等によって、子どもたちが自分で感じたこと、考えたことを表現し、共有する場を設けることが大切です。自分と違う考え方や価値観があることを知り、受け入れたり認め合えたりすることで、自分と他者を尊重する多様性を学ぶ機会になります。

また、社会福祉の問題を考えることで、そこに関わる人のことも考えることになります。例えば、車椅子の人はなぜ自由に外出できないのだろうと疑問に思うことで、その人たちが暮らす社会の問題を考えるきっかけになるのです。

社会福祉の問題を扱うことは、「人と社会の問題」「人の暮らしの問題」「人のいのちの問題」を考えることにつながります。これは、教育がもともと目指していることと共通しています。福祉を素材としてうまく扱っていただくことで、教育そのものにつながっていくと言えます。

学校における福祉教育

学校で福祉教育を進めるためには、全教科・全領域で取り組まれることが理想ですが、実際には特別活動や総合学習で福祉を取り上げることが多いと思います。しかし、福祉教育の内容を限定し、知識や技術を伝える場のみになると、「福祉教育」という一つの教科になり、学ぶ側にも教える側にも負担になってしまいます。福祉を広く捉えてみて、まずは様々な出会いやふれあいを通して気づくことが大切です。とはいえ、福祉はまだまだ非日常のことなので、子どもたちの関心を広げる働きかけが必要になります。高齢者や障害者に限らず、子どもたちの普段の生活の中にある地域や生活に関わる問題から学ぶのもよいと思います。

様々な教科と福祉教育を結び付けて考えるのは、一人の先生でやるのは難しいかもしれません。ぜひ他の先生とも話し合い、一緒に考え、協力してやっていただけるとよいと思います。

【参考】各教科における福祉（的）教育の実際例

国　　語	当事者などの体験談を読む、感想文を書きディベートしてみる、など
社　　会	障害者や女性などの実態や差別について、憲法や人権について、少子高齢社会について、社会保障制度について
英　　語	異文化体験、ＮＧＯなどの方のお話、英語によるコミュニケーション
技術・家庭	家事や介護等の体験、地域生活を考えてみる
道　　徳	いじめや差別を考えてみる、自分と他人の違いを考えてみる、多様な人々の多様な生き方を学ぶ、ディスカッション
保 健 体 育	健康とは、医療や保健などの制度を学ぶ
総 合 学 習	ボランティア体験（福祉に限らず）、施設体験（高齢者･障害者･児童･保育など）、職場体験（インターンシップ）、まちの課題を見つけ・調べ・まとめてみる、バリアフリー調査、など

おわりに

今回は、福祉教育の基本的な考え方をお話ししました。今は新型コロナウイルス感染症の影響の長期化で、学校でもこれまでのような福祉教育を実践することが難しくなっていますが、ぜひ子どもたちに福祉の学びを通じて、よい経験・体験を積み上げていってほしいと思います。福祉教育は子どもに教えるだけではなくて、実践する側も実は学んでいる、という側面があります。学校の先生だけではなく、社会福祉協議会と相談しながら、地域の方とも一緒に、学び合いの福祉教育につなげていただければと思います。

福祉教育プログラムについては、千葉市社会福祉協議会各区ボランティアセンターでご相談・お手伝いしますので、お気軽にお問合せください。

福祉教育の参考資料

①小学生向け福祉冊子「やさしい気持ち」（千葉市社会福祉協議会発行）
　小学４年生向けに配付している福祉教育の副読本です。
②中学生向け福祉冊子「やさしい社会をつくる」（千葉市社会福祉協議会発行）
　中学２年生向けに配付している福祉教育の副読本です。
③福祉教育ハンドブック　ACCESS　&　SUCCESS
　　（福祉教育ハンドブック編集委員会・千葉県社会福祉協議会発行）
　福祉教育を効果的に行うためのチェックリストなどがあります。
④授業で使える　福祉教育プログラム集【障害編】
　　（福祉教育プログラム＜障害編＞検討委員会・千葉県社会福祉協議会発行）
　子どもたちが障害について考え、話し合うきっかけになるプログラム例を掲載。
　※③④は千葉県社会福祉協議会ホームページから閲覧できます。

収集ボランティア活動へのご協力、ありがとうございました！

令和２年度は、40,113 円になりました！

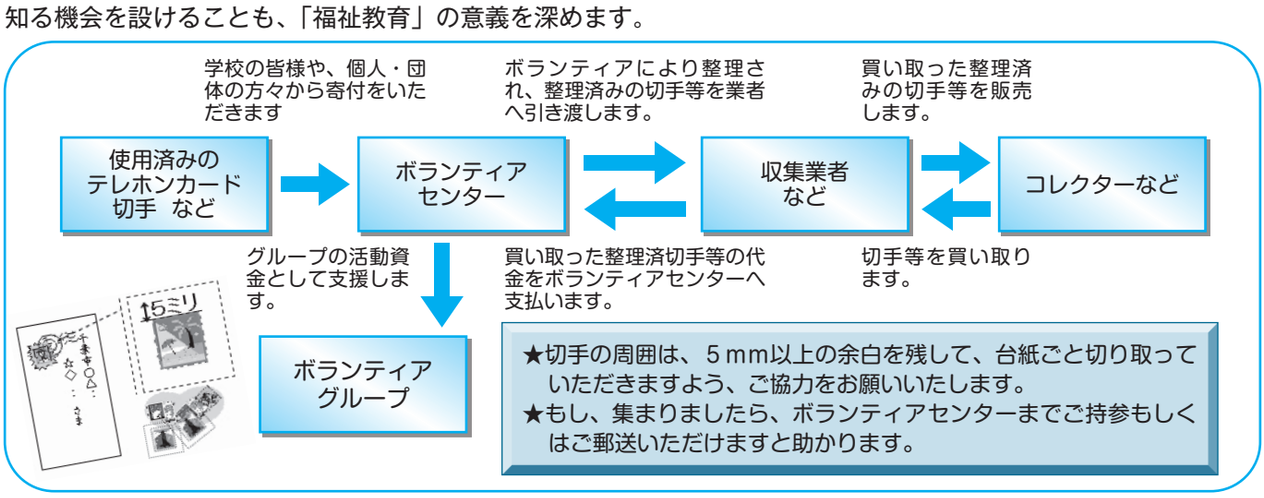
お届けいただいた使用済みテレホンカード・使用済み切手などは、ボランティアの皆さんが整理したあと、換金し、ボランティア団体の活動資金として役立てられています。書き損じ葉書等は、ボランティア団体への連絡用として活用しています。引き続き、ご協力をよろしくお願いいたします。

＜令和２年度にご協力いただいた学校等＞　※敬称略

受領年月日	学　校　名	使用済み テレカ等	使用済み 切手
R2.5.27 , R3.3.15	弁天小学校	222 g	1,080g
R2.6.20	大木戸小学校	1,500 g	-
R2.7.30	小倉小学校 PTA 環境整備部	655 g	-
R3.3.18 , R3.3.30	泉谷中学校	-	55 g

～使用済み切手などが役に立つまで～

いただいた使用済み切手などがどのように社会の役に立つか、下図でまとめてみました。
収集活動にチャレンジしていただくことはもちろん、「集めることでどのように役に立つのか」を子どもたちが知る機会を設けることも、「福祉教育」の意義を深めます。



◆千葉市社会福祉協議会「福祉教育支援事業」のご案内◆

本会では、学校での福祉教育・ボランティア学習を推進するため、福祉教育支援事業を実施しています。計画の参考にしていただければ幸いです。

現在、新型コロナウイルス感染症予防対策を行ったうえで貸し出しや事業を実施しています。ご協力くださいますようお願いいたします。

なお、本会職員、依頼講師はマスクを着用し、検温等健康チェックを各自行ったうえで訪問します。

◆三密を避け、換気が行える会場で実施する
◆原則、接触を伴う体験活動、対面でのグループワーク等のプログラムは実施しない
◆体験用具は使用の都度消毒を行い、複数の参加者間の使いまわしは極力避ける
◆会場に手指消毒液を設置する

★「ふれあいトーク」

「ふれあいトーク」は、視覚障害のある方が学校に出向き、「日常生活のこと」や「児童・生徒に考えてもらいたいこと」などについてお話しするプログラムです。実施を希望される場合は、学校所在区のボランティアセンターまでご連絡ください。

聴覚障害については「千葉市聴覚障害者協会」において講師派遣を行っています（有料）。こちらも、学校所在区のボランティアセンターまでご相談ください。

※ふれあいトーク講師の送迎については、本会で行います。
※お申し込みの際には、開催希望日の１か月前（講師によっては２か月前）を目安として、候補日を複数お伝えください。
※講師の都合によっては、ご期待に沿えない場合もございます。あらかじめ、ご了承ください。

★「出張ボランティア・福祉体験講座」

ボランティアセンターの職員が学校に出向き、ボランティアに関するお話や、高齢者疑似体験・車椅子体験の指導を行っています。

プログラムのご相談やお問い合わせは、学校所在区のボランティアセンターへお願いします。

★「福祉体験用具の貸出し」

市及び各区ボランティアセンターでは、福祉教育・ボランティア学習を支援するため、さまざまな福祉体験用具の貸出しを行っています。ご利用いただくには、予約が必要です。

各ボランティアセンターまでお問い合わせください。

◆体験用具の一例◆

＜高齢者疑似体験セット（シニアポーズ・エルダートライ）＞

〔シニアポーズ〕

※取扱：花見川区・稲毛区・若葉区・美浜区・市 VC

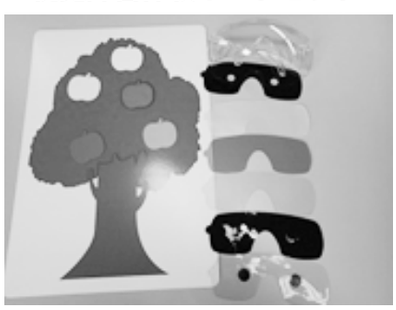
〔エルダートライ〕

※取扱：緑区

加齢に伴う自然な身体変化や、脳卒中などの病気の後遺症、けがなどの障害によって生じる身体機能の低下・日常生活の不自由さを体験できるセットです。

高齢者に対する接し方や生活環境、バリアフリーなどについて考えさせる体験学習などに活用いただけます。

＜視覚障害体験ボードセット＞※取扱：市 VC



グラス（めがね）と、樹木を描いた紙製のマグネットボード・リンゴの形をした５色のマグネットのセットです。

樹木のボードにリンゴの形をした５色の紙製のマグネットを貼り、グラスに６種類のシートを装着することで、白内障や視野狭窄などの状態、視覚障害における色の識別についての疑似体験ができるようになっています。

視覚障害についての学習に活用いただけます。

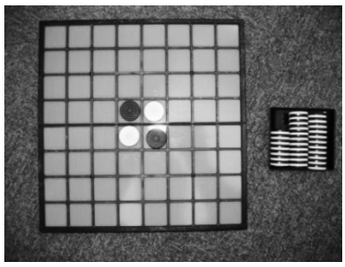
＜視覚障害体験プレートセット＞※取扱：花見川区・稲毛区・若葉区・緑区・美浜区

グラス（めがね）と、裏側にマグネットの付いた１２枚の紙製プレート（非常口標示板など）のセットです。

グラスに３種類のシートを装着することにより、白内障や視野狭窄などの状態、視覚障害における色の識別についての疑似体験ができるようになっています。

視覚障害についての学習に活用いただけます。

＜マグネットオセロ＞※取扱：中央区以外



石にはマグネットが入っていて、盤のマス目の仕切りが凸状になっているため、置いた石がずれません。

また、石の白い面は平面、黒い面には渦巻き状の凹凸が付いているので、石の表裏が、触れることでわかるようになっています。

視覚障害についての学習に活用いただけます。

＜鈴入りサッカーボール（ブラインドサッカーボール）＞※取扱：中央区以外

ボールの中に鈴が入っている、ブラインドサッカー（視覚に障害のある方がプレーできるように考案されたサッカー）用のボールです。

転がると鈴が鳴って、ボールの位置を音で確認できるようになっています。

ブラインドサッカー体験をはじめとした、視覚障害についての学習に活用いただけます。

＜妊婦疑似体教材＞※取扱：花見川区、若葉区、美浜区、市 VC

妊娠時期の身体の変化などを体験することができるセットです。

砂袋を 1 kg 単位で装着することができる仕組みとなっていますので、妊娠中期から妊娠後期にかけて、妊娠時期の身体の変化を体験することが可能です。

★福祉体験用具の数量一覧表

（令和 3 年 12 月 1 日現在）

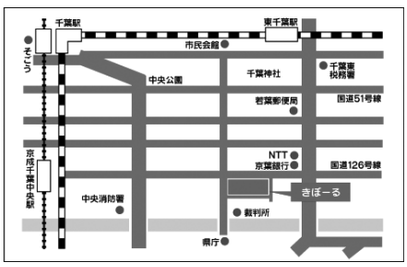
	中央区	花見川区	稲毛区	若葉区	緑　区	美浜区	市 VC
高齢者疑似体験セット							
〔シニアポーズ〕		12	12	12		12	12
〔エルダートライ〕					11		
車椅子　〔自走式〕	4	11	10	10	11	10	15
白杖　〔折りたたみ式〕		50	50	50	40	60	40
〔直杖〕							35
点字器　〔通常サイズ〕		60	60	60	60	60	100
〔小型サイズ〕							50
点字マニュアル		60	60	60	60	60	100
視覚障害体験プレートセット		5	5	5	5	5	
視覚障害体験ボードセット							5
マグネットオセロ		7	7	7	7	7	6
点字トランプ		7	7	7	7	7	7
音声電卓		4	7	7	4	7	6
鈴入りサッカーボール		7	7	7	7	7	7
体験用点字ブロックセット			1				1
妊婦疑似体験教材		1		2		2	2

※中央区ボランティアセンターは、車椅子のみの貸出しです。また、駐車場は有料となっておりますのでご注意ください。

福祉教育・ボランティア学習の相談窓口

★区ボランティアセンターは、千葉市社会福祉協議会区事務所が運営しています。

中央区ボランティアセンター

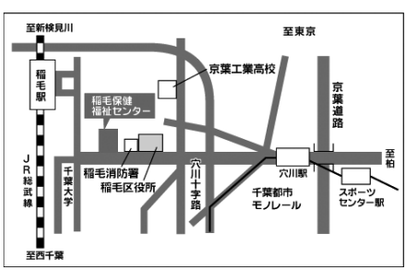


〒260-8511 千葉市中央区中央4-5-1（Qiball〔きぼーる〕15階）
TEL 043-221-2177　FAX 043-221-6077

花見川区ボランティアセンター

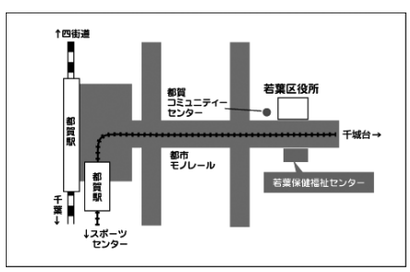
〒262-8510 千葉市花見川区瑞穂1-1（花見川保健福祉センター3階）
TEL 043-275-6438　FAX 043-299-1274

稲毛区ボランティアセンター



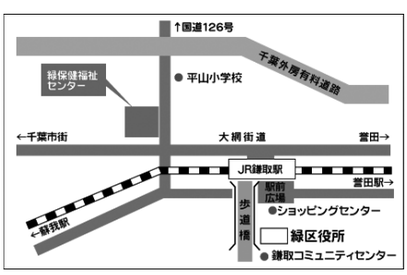
〒263-8550 千葉市稲毛区穴川4-12-4（稲毛保健福祉センター3階）
TEL 043-284-6160　FAX 043-290-8318

若葉区ボランティアセンター



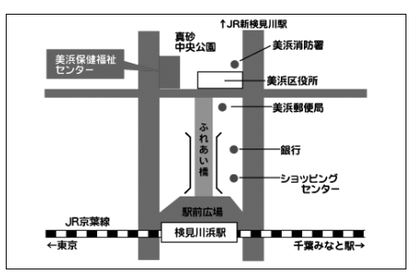
〒264-8550 千葉市若葉区貝塚2-19-1（若葉保健福祉センター3階）
TEL 043-233-8181　FAX 043-233-8171

緑区ボランティアセンター



〒266-8550 千葉市緑区鎌取町226-1（緑保健福祉センター2階）
TEL 043-292-8185　FAX 043-293-8284

美浜区ボランティアセンター



〒261-8581 千葉市美浜区真砂5-15-2（美浜保健福祉センター2階）
TEL 043-278-3252　FAX 043-278-5775

OPEN　月曜日～金曜日　8：30～17：30　　第2日曜日　9：00～17：00
（いずれも祝日、日曜祝日の翌月曜日、年末年始を除く）

千葉市ボランティアセンター

〒260-8618　千葉市中央区千葉寺町1208-2
千葉市ハーモニープラザB棟3階
TEL 043-209-8850　FAX 043-312-2886

OPEN　火曜日～土曜日　8：30～17：30
（祝日、月曜祝日の翌火曜日、年末年始を除く）

※各区ボランティアセンターとは開館日が異なりますのでご注意ください。